

## 木造家屋評価演習について

### 1 ねらい

当演習では、住宅展示場のモデルハウスを教材として実地調査に赴き、グループ毎に討議や検討を重ね、実際に評点付設を行った上で、発表していただきます。その過程を通して、家屋評価に係る実務処理能力の向上を図ることをねらいとしています。

正解を追求することはもちろんのことですが、他の自治体の方と意見交換し合う貴重な機会として有意義に活用してください。

### 2 実地調査における留意事項、持ち物

幕張ハウジングパーク展示場のモデルハウスにおいて実地調査を行います。現地調査の所要時間は2時間程度です。集団調査となりますので、調査中は周辺に気を配り、服装や靴は動きやすいものにしてください。

**【持ち物】 ※下記その他、各自必要と思われるものは適宜用意してください。**

- ・ デジタルカメラ（カメラ付携帯電話等でも可、必要に応じて使用）
- ・ 歩きやすい靴
- ・ 帽子（熱中症対策）
- ・ 雨具
- ・ 飲料水（現地調達が数に限りがございます。）
- ・ 筆記用具
- ・ メジャー
- ・ 画板（職場の実地調査で使用しているもの）
- ・ メモ帳、ノート（展示場内でも記入しやすいもの）
- ・ **図面** 木造家屋評価演習（第三展示場・評価計算、発表資料）※同封資料
- ・ **自主研修資料** 木造家屋評価演習（第二展示場・パンフレット）※同封資料

### 3 班構成と役割分担等

- (1) 皆さんから提出される「研修受講申告書」をもとに、班編成を行い、入寮日にお知らせします。
- (2) 評価実務演習においては、討議や発表準備を自主的・計画的に進められるよう、「座長」、「記録係」及び「発表者」の役割分担を設けます。
- (3) 事例演習は、初対面で、所属団体の規模や各自の実務経験も異なる個人同士による共同作業として行われます。座長の任に当たることは、今後職務を行う上での貴重な経験となり、人脈も広がって、合同研修に参加した意義もより高まります。どうか積極的に、座長就任を希望してください。

#### 4 演習の進め方

- (1) モデルハウスにおいて、実地研修を行います。
- (2) 教室にて、グループ別の討議形式により、演習事例（モデルハウス）を実際に評点付設します。
- (3) グループ別に討議した結果を発表した後、講師から講評があります。

#### 5 その他

今回同封した「図面 木造家屋評価演習（第三展示場・評価計算、発表資料）」、「自主研修資料 木造家屋評価演習（第二展示場・パンフレット）」を事前にご確認のうえ、実地調査に向けた準備をしておいてください。